



消防環境ネットワークニュース

特定非営利活動法人 消防環境ネットワーク 第37号 2025年12月25日発行

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-18-2 NKKビル4階

TEL 03-5404-2180

URL <https://www.sknetwork.or.jp/>



1. NOAAとNASAが発表（オゾンホール、縮小傾向に）

アメリカ海洋大気局(NOAA)とアメリカ航空宇宙局(NASA)が、11月24日に発表した内容を、当消防環境ネットワーク事務局が翻訳し掲載しました。

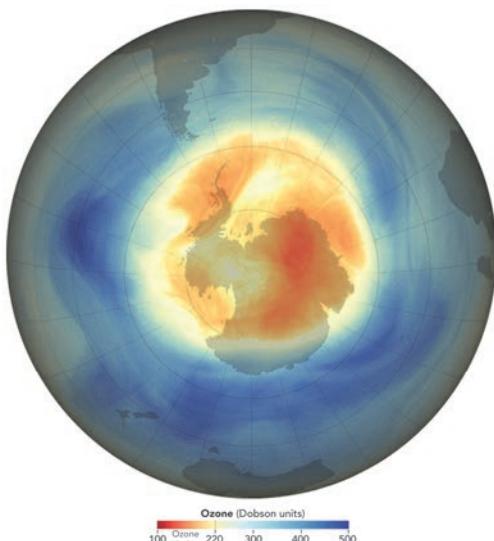
オゾンホール、縮小傾向に

～2025年のオゾンホールは1992年以降5番目に小さい～

オゾンホールは、南極上空のオゾン量が極端に少なくなる現象で、オゾン層に穴の空いたような状態であることからその名が付けられた。

南極上空のオゾンホールの面積は、2025年9月7日から10月13日までの平均で1,871万km²でありこれはアメリカ本土の約2倍の大きさに相当する。オゾンホール最大の発生日は9月9日で、2,286万km²に達した。しかしこれは2006年に観測された最大のオゾンホールより約30%小さい数値である。

オゾンホールは依然として広大であるが、1996年の平均2,660万km²よりもかなり小さくなつた。オゾンホールは縮小傾向にあり、1992年以降で5番目に小さいものとなつた。



上図は、南極上空のオゾンホール（黄色・橙色・赤色の部分）が最大となった日（2025年9月9日）の大きさを示している。【出所 NOAAホームページ】

「2000年頃にピークを迎えて以来、南極成層圏のオゾン層破壊物質のレベルは、オゾンホール発生以前のレベルに比べて約3分の1減少した」と、NOAAグローバルモニタリング研究所の上級科学者スティーブン・モンツカ氏は述べている。モントリオール議定書に基づく世界的な取り組みの成果として、大気中のオゾン破壊物質の減少が続いていることのあらわれである。

オゾン層は、有害な紫外線から日焼け止めのように機能するため、地球上の生命を守るために極めて重要である。オゾン層が減少するとより多くの紫外線が地球表面に到達し、皮膚がん、白内障、作物被害のリスクが高まる。

<続き>

オゾン層の破壊は、特定の塩素や臭素を含む化合物が成層圏に達し、強い紫外線によって分解され、反応性の塩素と臭素が放出されることから始まる。そしてこれらの物質はオゾン分子と相互作用し、それを破壊する。

主な原因である塩素や臭素系化合物は、かつて冷媒やエアロゾルに一般的だったもので、1987年 のモントリオール議定書で禁止された後も、数十年にわたり大気中に残っている。

今年のデータはオゾン層回復にとって朗報であるが、オゾンホールの大きさや深さは年によって大きく異なるため、警戒は続けなければならない。南極上空のオゾンホールは 2060 年代後半頃に回復すると予想されている。しかし、モントリオール議定書の科学評価パネルの元共同議長でもあるポール・ニューマン氏が「1980 年代の水準に戻るまでにはまだ長い道のりがある」と述べたように、世界的な取り組みは強力に継続しなければならない。

2. 「ハロン消火剤と予防行政に関する研修会 2025」(オンライン研修)

「ハロン消火剤と予防行政に関する研修会 2025」を開催します。

12 年目となる今年度は、オンライン研修のみです。



特別講演として、前年度に続き“さかなクン”に『地球環境と海の生物Ⅱ』と題して講演をお願いしました。環境の変化が食文化に与える影響から話題は始まり、消防環境ネットワークからの質問にも熱く答えてくれています。

動画は、2026 年 1 月 26 日（月）正午配信開始です。なお、オンライン研修の申し込みは終了しています。

3. 企業訪問学習の対応

修学旅行の中での学習や課外活動の一環として、企業や団体を訪問する学校があります。今年度は、北海道や岐阜県など 10 道県から 16 校 100 名の中学生・高校生が当団体の事務所を訪問。消防環境ネットワークの地球環境保全や SDGs への取り組み等について伝えました。

修学旅行後に全校生徒が集まっての発表会を行う中学校もあり、消防環境ネットワークを知ってもらうよい機会であるとも言えましょう。



NPO 法人と株式会社の相違点について説明しているようす

4. ハロン消火剤及びハロンを除くガス系消火剤の登録状況

2025 年度（2025 年 4 月～11 月）のハロン供給及び回収実績、ガス系消火剤（ハロンを除く）の登録状況は、次のとおりです。また 2025 年 12 月 15 日現在、ハロン 1301 の登録件数は約 43,000 件、消火剤量は約 16,600 t です。

□ ハロン供給及び回収実績

供給ガス	100 件、 80.0 t (2024 年同時期 105 件、 45.5 t)
回収ガス	380 件、 123.2 t (2024 年同時期 470 件、 100.0 t)

* 「供給ガス」は、新たに設置する「設置ガス」と火災等による「補充ガス」の合計です。

* 「回収ガス」は、ハロン 2402・ハロン 1211・ハロン 1301 の合計です。

□ ガス系消火剤（ハロンを除く）の登録状況

二酸化炭素	81 件、 127.2 t (2024 年同時期 86 件、 161.1 t)
窒素・IG-55・IG-541	206 件、 291.7 千 m ³ (2024 年同時期 173 件、 185.7 千 m ³)
HFC-23・HFC-227ea・FK-5-1-12	8 件、 0.4 t (2024 年同時期 12 件、 6.6 t)

5. ハロン 1301 回収再生設備の登録更新

次の2事業所よりハロン 1301 回収再生設備の登録更新の届け出があり、現地調査を行ってその内容の確認を実施しました。

(確認実施の順)

名 称	所 在 地
株式会社イナートガスセンター	千葉県山武市松尾町借毛本郷 640 番地 1
松山酸素株式会社	愛媛県松山市西垣生町 2877 番地



株式会社イナートガスセンター



松山酸素株式会社

ハロン 1301 回収再生設備は消防環境ネットワークに登録されていて、定期的な立ち会いによって「品質」や「再生率」等を確認しています。

6. 「2026 NEW 環境展」に出展

2026年5月20日（水）から22日（金）までの3日間、東京ビッグサイト（東京・江東区）で開催される「2026 NEW 環境展」に、当消防環境ネットワークが協賛4社とともに出展します。

消防環境ネットワーク設立後は、「2019 NEW 環境展」（2019年3月 東京）、「第4回[関西]スマートビルディング EXPO」（2020年9月 大阪）、「エコプロ 2022」（2022年12月 東京）、「2024 NEW 環境展」（2024年5月 東京）に、それぞれ出展してきました。

消防環境ネットワークが、地球環境の保全に関するオゾン層保護及び地球温暖化の対策に積極的に取り組んでいることを広く知らせる目的で、普及啓発事業の一環として出展するものです。



消防環境ネットワークは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。